

K0127

120分

[注意事項]

- * 受験番号は受験票で確認し、算用数字で正確に記入してください。
- * 解答は、所定欄に楷書ではっきりと記述してください。
- * 試験問題と解答用紙（同一）は回収しますので、持ち帰らないでください。

受 験 番 号					
		—			

氏 名	(フリガナ)
	(漢字)

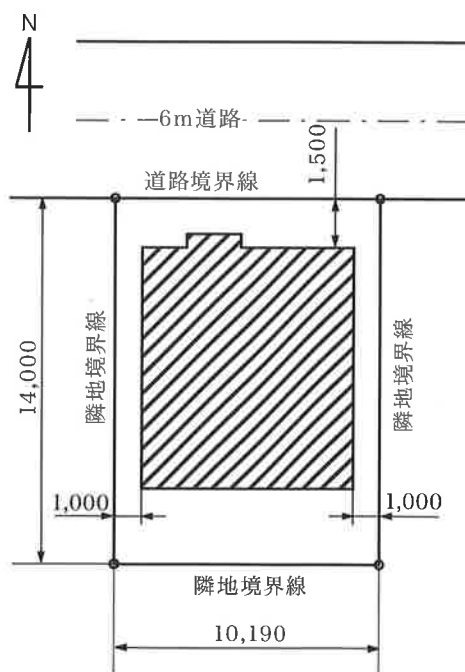
[問題1] 下記の建築物の解体工事を発注者から直接請け負った。あなたが責任者として、工事着工から完了まで現場を管理するとして、次の問1-1から問1-5までの質問に答えなさい。

[解体する建物の概要]

- (1) 敷地面積：142.7m²
- (2) 建築面積：75.3m²
- (3) 延べ床面積：139.4m² (1階 64.1m²、2階 75.3m²)
- (4) 構造：木造2階建て (在来軸組構法)
基礎はコンクリート造・布基礎
- (5) 用途：住宅 (1975年竣工)
- (6) 外部仕上げ：外壁 ラスモルタル塗り・リシン吹付
屋根 金属屋根 (瓦棒葺き) 屋根葺き面積は90m²
石綿含有建材は、軒天井材にだけ使用されている。
- (7) 内部仕上げ：天井・壁 石膏ボード・クロス (壁紙) 仕上げ

[立地・作業条件]

- (1) 建物は密集した住居地域内にある。
- (2) 駐車禁止地区であるため、車両は道路に駐車できない。
- (3) 作業時間は、午前8時より午後5時までとする。



配置図

問1-1 当該解体工事の事前調査を行うとき、特に必要と思われる留意事項を次の欄に3つ記述しなさい。

(1)

(2)

(3)

問1-2 屋根葺き材、軒天井材及び外壁の撤去に必要な足場は、どのような構造（種類）及び規模（高さ×延べ長さ）とするか記述しなさい。

(1) 足場の構造（種類）：

(2) 足場の規模（高さ×延べ長さ）：

問1-3 外部仕上げ（屋根・外壁・軒天井）の解体作業について、必要な留意事項を具体的に3つ記述しなさい。

(1)

(2)

(3)

問1-4 石綿含有建材である軒天井材の現場保管方法、運搬方法、処分方法の要点を記述しなさい。

(1) 保管方法：

(2) 運搬方法：

(3) 処分方法：

問1-5 当該建築物を分別解体して発生する「木くず」および「屋根葺き材」のおよその発生量を(イ)～(ハ)より選んで()内に記入しなさい。

(1) 木くず () トン

(イ) 6～9

(ロ) 12～15

(ハ) 18～21

(2) 屋根葺き材 () トン

(イ) 0.4～0.7

(ロ) 1.6～2.0

(ハ) 4.0～5.0

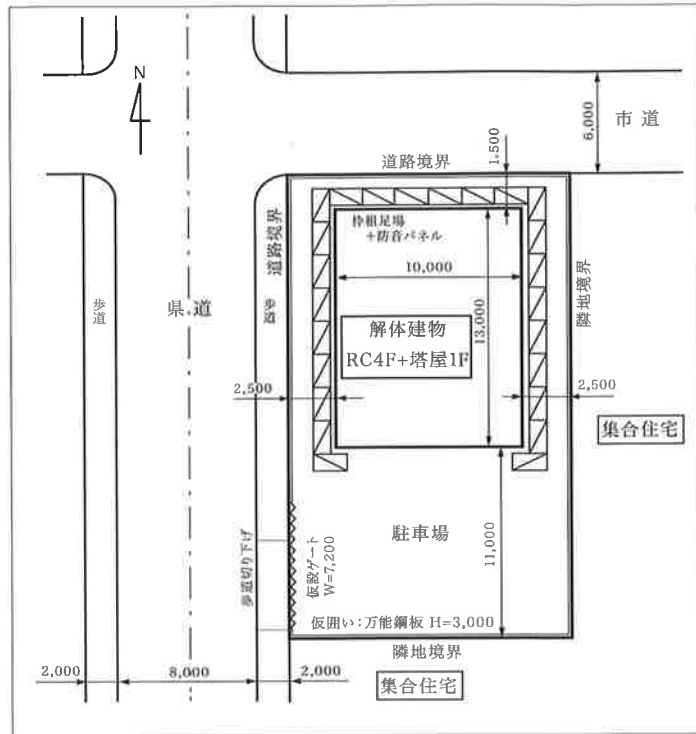
【問題2】 下記の鉄筋コンクリート造建築物の解体工事を発注者から直接請け負った。地上解体工法により解体工事を行うとした場合、あなたが責任者になって工事着工から完了まで現場を管理するとして、次の問2-1から2-5までの問題に答えなさい。

【解体する建築物の概要】

- (1) 敷地面積：382.5m² (15m×25.5m) 高低差なし
- (2) 構造：鉄筋コンクリート造（ラーメン構造）
基礎は杭基礎
- (3) 建築規模：地上4階建＋塔屋
建築面積 130m² (10m×13m)
軒高13m＋塔屋3m
- (4) 延床面積：529m² (塔屋面積9m²を含む)
- (5) 用途：事務所
- (6) 石綿含有建材は使用されていない。

【立地・作業条件】

- (1) 当該敷地は角地にあり、敷地東側・南側にはRC造の集合住宅が隣接している。
- (2) 敷地西側道路は県道で幅員12m、北側道路は市道で幅員6mである。
- (3) 当該敷地の南側は駐車場となっている。
- (4) 西側の車道及び、歩道の交通量が多い。
- (5) 作業時間は、午前8時から午後5時までとする。
- (6) 敷地境界には高さ3mの万能鋼板を設置し、解体建物外周3面には桝組足場と防音パネルを軒高より1.5m上まで設置する。
- (7) 基礎はフーチングまで撤去し、杭は存置とする。



問2-1 必要と思われる仮設物・仮設設備等を4つ記入しなさい。ただし、図示してあるものは除く。

①

②

③

④

問2-2 着工前に必要な許可申請・届出の名称と、選任が必要な作業主任者の名称を、それぞれ2つ記入しなさい。

(1) 許可申請・届出の名称

①

②

(2) 選任が必要な作業主任者の名称

①

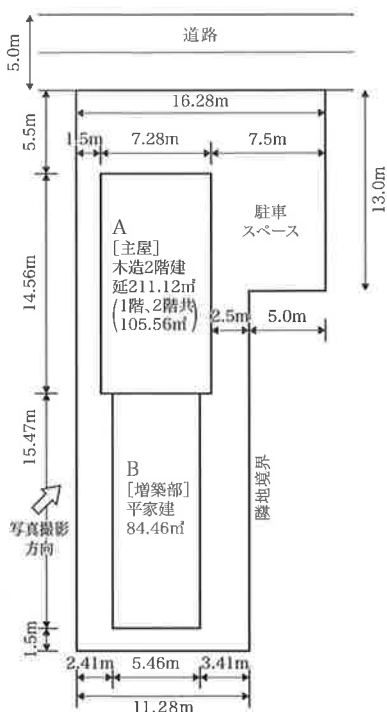
②

【問題3】 下記の[建物概要]に示したA[主屋]とB[増築部]からなる木造建築（水産加工場）のうち、[増築部]の屋根及び外壁は[主屋]からの落雪により、写真のように著しい損傷を受けた。

加工場の機能を回復するために、[増築部]だけを解体して再建することとした。

[増築部]の解体作業に当たって配慮すべき点を、次の2つの観点から解答欄に具体的に記述しなさい。

- ① [主屋]の機能に影響を与えない解体工法の選択と手順
- ② 発生した廃材の現場における分別作業



【建物概要】 東北地方沿岸部の水産加工場

- A. 主 屋：築45年木造2階建て（延べ床面積211.12m²）
 屋根・外壁：トタン（亜鉛メッキ鋼板）葺き・ペイント仕上げ
 外部建具：アルミサッシ
 内部建具：無し
 現在も水産加工場として使用中
- B. 増築部：築30年木造平屋建て（延べ床面積84.46m²）
 屋根・外壁：主屋と同様 トタン（亜鉛メッキ鋼板）葺き・ペイント仕上げ
 外部建具：アルミサッシ
 内部建具：無し

いずれの建物にも、石綿含有建材は使用されていない。

①[主屋]の機能に影響を与えない解体工法の選択と手順

②発生した廃材の現場における分別作業

【問題4】 躯体の解体工事開始後に暴風雨が予想される場合、予想される危険を3つ挙げ、それぞれに対して主任技術者として前日までに講じるべき安全対策を記述しなさい。

予想される危険	安 全 対 策
①	<hr/> <hr/> <hr/>
②	<hr/> <hr/> <hr/>
③	<hr/> <hr/> <hr/>

